

びん再使用ネットワーク設立30周年記念イベント

びん再使用ネットワークは
容器包装のごみ問題解決のため
びんリユースに取り組む4生協
(パルシステム連合会、グリーンコープ連合、
生活クラブ連合会、東都生協)が集まり
1994年に設立されました。
設立30周年を記念しリユースびんをアピールします。

参加費
無料

実参加とオンライン配信の
ハイブリッド開催です

リユースびんの 社会普及をめざして

北海道から九州まで
約300万組合員世帯



【日時】 2024 年 6 月 29 日 (土) 13:00~16:10 (開場 12:30)

【会場】 連合会館 2F 大会議室 (東京都千代田区)

【主催】 びん再使用ネットワーク

【協力】 びんリユース推進全国協議会

【プログラム】

13：00	開会挨拶	古家滋子さん（パルシステム山梨長野理事長）
13：05	来賓挨拶	吉川泰弘さん（経済産業省 産業技術環境局資源循環経済課 課長補佐（総括担当）
記念スピーチ		
13：10	『捨てるという概念を「捨てる」リユースの取組み』 エリック・カワバタさん（テラサイクルジャパン代表）	
13：55	『ごみを減らそう！』マシンガンズ滝沢さん	
14：40～14：55	休憩	
最新報告		
14：55～	『リユースびんをめぐる日本の情勢』 吉川康彦さん（びんリユース推進全国協議会副代表・㈱吉川商店社長）	
	『リユースびん実現に向けた再挑戦』 奥村由香さん（コープ自然派事業連合理事・リサイクル委員会委員長）	
	『ペットボトルからリユースびんへ』 佐藤静さん（生活クラブ北海道・サステイナブル委員会担当理事） 茂又忠通さん（福山醸造㈱ 事業部長）	
	『リユースびんでSDG s 達成貢献』山崎和彦さん（富士ボトリング（株）代表取締役）	
リレーメッセージ		
15：50～	協力団体	吉永茂樹さん（びんリユース推進全国協議会事務局長）
	びんネット	西内良子さん（パルシステム埼玉常任理事）
	4 生協	上川畑由美さん（グリーンコープ共同体組織委員会委員長）
		石井清美さん（生活クラブ連合会理事・埼玉理事長）
		根岸忍さん（東都生協組合員理事）
16：05～	閉会挨拶	前田和記（びん再使用ネットワーク代表幹事・生活クラブ連合会常勤理事）

司会：エコアナウンサー 櫻田彩子さん

【ご注意ください】

- ① 主催者以外によるオンライン録画や録音はご遠慮ください。
- ② 滝沢さんの写真撮影は可能ですが、PPT画面が写り込まないようにご注意下さい。
- ③ ご登壇者の発表するPPT資料は配布・公開していません。
- ④ びんネット加盟生協による広報活動（WEBサイトへの写真掲載など）のため、イベント会場の様子を写真撮影させていただきますので、あらかじめご了承ください。
- ⑤ 会議室での飲食は可能ですが、室内を汚さないようにお願いいたします。
- ⑥ トイレは、会館の1F、2F、4F、5Fが使用できます。

【アンケートへのご協力をお願い】

本日はお忙しい中、びん再使用ネットワーク30周年記念イベントにご参加いただき、ありがとうございました。今後の活動に活かしたいので、アンケートへのご協力をお願い致します。



【資料1】びん再使用ネットワーク 30 年のあゆみ

年度	主な活動
1993 年	・「リユースびん規格統一会議」を結成（1993 年 6 月） ・びんの規格を統一し、日本ガラスびん協会の  マーク刻印（1994 年 3 月）
1994 年	・びん再使用ネットワーク発足 ・生活クラブ連合会・首都圏コープ事業連合・東都生協で R びんのリユース開始
1995 年	・日本ガラスびん協会、厚生省、流通メーカーと協議 ・「ごみは本当に減らせるか」シンポジウム開催
1996 年	・グリーンコープで R びんのリユース開始 ・「ごみ排出責任を問う」シンポジウム開催
1997 年	・プラスチックボトル調査で欧州視察 & P C ボトル残留試験実施 ・「容器包装リサイクル法の半年点検」シンポジウム開催 ・(株)横内新生ミルク工場（安曇野市）見学
1998 年	・日本ガラスびん協会と軽量強化びん開発スタート ・環境庁モデル事業「店頭回収デポジット効果検証」
1999 年	・日本生協連の実施した「L C A 調査報告書」について意見交換 ・(株)アサヒビールパックス（姫路市）& (株)ウエダ洗びん工場（加古川市）見学 ・専用クレートモデル調査 & 超軽量 R びんのラインナップ
2000 年	・容器間比較研究会の実施した「L C A 調査報告書」について日本生協連と懇談 ・「循環型社会づくり」シンポジウム開催、リユースびん事業者アンケート実施 ・新生酪農(株)栃木工場（那須塩原市）見学
2001 年	・戸田リサイクル工場見学 ・「暮らしに生きるリターナブルびん」ビデオ作成 & 交流集会開催 ・「ライフスタイル見直しフォーラム」参画
2002 年	・びん再使用ネットワーク賛助会員との情報交換会、会員生協間の情報交換会を開催 ・「R びんハンドブック」作成 ・「リユース優先の循環型社会をめざして」シンポジウム開催
2003 年	・自治体の収集費用を調査する「廃棄物会計 2001」実施、報告会実施・報告書発行 ・容器包装リサイクル法の改正を求める全国ネットワークに参画 ・韓国 3R 事情の視察
2004 年	・「廃棄物会計 2002 調査」、学習会 & 報告会実施、報告書発行 ・帝人ファイバー(株)徳山事業所「P E T ボトルリサイクル工場」見学 ・R びんが杉並区の「薄着賞」グランプリを受賞
2005 年	・「廃棄物会計 2003 調査」、学習会 & 報告会実施 ・びんネット片面共通チラシ作成
2006 年	・「廃棄物会計調査報告書（過去 4 ヶ年のまとめを含む）」発行 ・「R マークびん全国交流集会」開催 ・携帯可能リターナブルびん（R ドロップス）調査開発プロジェクト準備開始

2007 年	・びんネットが第一回容器包装 3R 推進環境大臣賞[地域の連携協働部門]最優秀賞受賞 ・経済産業省委託「地域省エネ型リユース促進事業」 (東京薬科・横浜市立・千葉の 3 つの大学生協で R ドロップスでテスト販売)
2008 年	・「学生、市民と進めるリユースびん普及プロジェクト」スタート ・R ドロップス、日本テレビ系列『ご存じですか、くらしナビ最前線』が紹介 ・”くり返し使うびん”応援コンテスト実施
2009 年	・「学生、市民と進めるリユースびん普及プロジェクト」を継続 ・「リユースびん集まれ！関西集会」を実施 ・R ドロップス 2 リニューアルデザインを実施
2010 年	・2R 促進法制定連続学習会（7/16 新潟、7/21 東京、7/29 大阪、7/26 福岡） ・「すきだ・まちだ・りゆうすだ」キャンペーン実施 ・「R ドロップス 2 号」誕生
2011 年	・「びんリユース推進全国協議会」の設立に参画 ・R ドロップスを使用した地サイダー「十万馬力新宿サイダー」開発サポート実施
2012 年	・「びんリユースと未来社会」リユースシンポジウム開催 ・カビ問題の解決をめざす検討会を立上げて対策を実施（～2013 まで）
2013 年	・びんリユース推進全国協議会の「2R 環境教育ワークショップ」に参加 ・2013 年度の環境省「学乳びん導入支援モデル事業」を受託実施
2014 年	・2014 年度の環境省「学乳びん導入支援モデル事業」を受託実施 ・びんネット設立 20 周年記念「”R びんのある暮らし”フォトコンテスト」開催 ・ホームページをリニューアル
2015 年	・20 周記念「びん再使用ネットワーク紹介リーフ」作成 ・新潟県総合生協と新潟ガラスリサイクルセンター(株)見学
2016 年	・東洋ガラス(株)滋賀工場を見学 ・(株)田中商店（水俣市）& クルメキッコー(株)（久留米市）見学 ・容器包装の 3R を進める全国ネットワークの振返り集会に参加
2017 年	・石塚硝子(株)岩倉工場&(株)コーミ（名古屋市）見学 ・動画「リユースびん物語-ドキュメンタリー風-」作成（3 年間限定公開）
2018 年	・石塚硝子(株)姫路工場と(株)吉川商店（京都市）を見学 ・「SDG s 時代におけるリユースびんの普及をめざして」学習会開催
2019 年	・タイヘイ(株)（匝瑳市）& 新生酪農(株)千葉工場（睦沢町）を見学 ・生協別「REUSE BOTTLE HANDBOOK」作成
2020 年	・R びん普及用動画（びんにまつわる ちょっといい話）作成 ：「R びん利用促進」編&「R びん回収アップ」編
2021 年	・洗びん工場リニューアル記念イベント「R びんの普及をめざして」(株)エリックス共催 ・ホームページをセミリニューアル
2022 年	・リサイクル洗びんセンター見学（昭島市） ・ホームページの「豆知識」を豊富化
2023 年	・びんネット設立 30 周年記念「回収率 10%UP キャンペーン」実施 ・京都大学に「R びんリユースの環境負荷削減効果に関する研究」を委託 ・(株)吉川商店（京都市）と斗々屋京都本店を見学し、京都大学を訪問

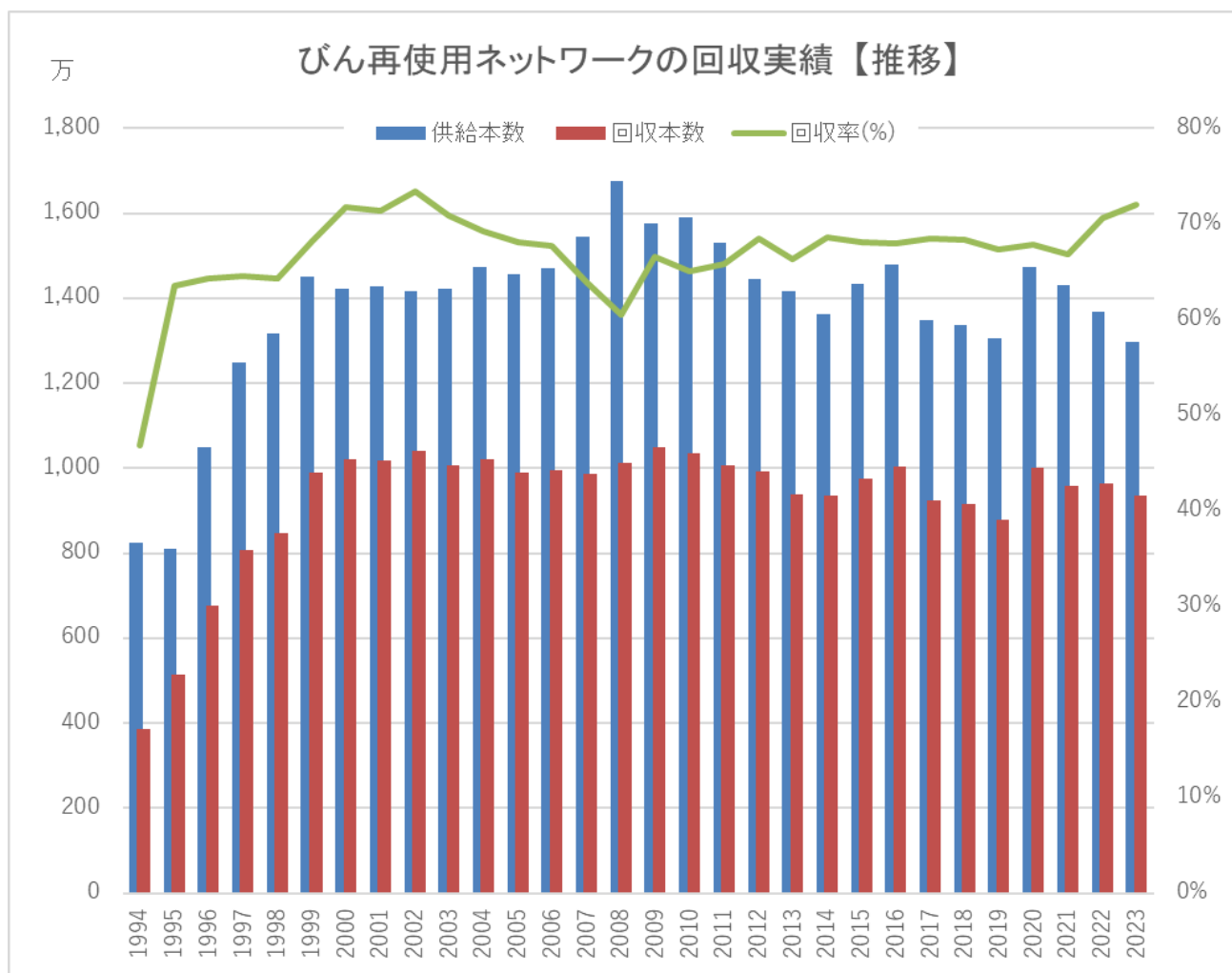


【資料 2】 累計 2.8 億本を回収し、45 億円の自治体費用を節約

【7 種類の規格統一 R びん】



生協により、取り組む R びんの種類が、一部異なっています。



■2.8 億本の総重量は 7.6 万 t。これにより、約 45 億円の自治体回収費を節約しています。（「廃棄物会計調査」によるガラスびん回収コストは 59,117 円/t）

【資料 3】 R びんリユースによる環境負荷低減効果

2023 年 6 月、びん再使用ネットワークは、「R びんリユースの環境負荷削減効果に関する研究」を京都大学環境安全保健機構環境管理部門に委託し、2024 年 4 月に報告書を受領しました。この研究は、京都大学が先行実施したガラスびん 3 R 促進協議会の解析枠組をベースとし、生協の共同購入実態を加味して行われました。

分析したのは 500ml びん容器で、メーカーが一般に製造するワンウェイびんの平均値 221 g /本と生協で使用する超軽量 R びん 195 g /本です。供給数はびん再使用ネットワーク合計の 1470 万本で、歩留まりは生協の平均値 95%が使用されています。回収率は、60%、70%、80%の 3 パターンです。

1) 結論

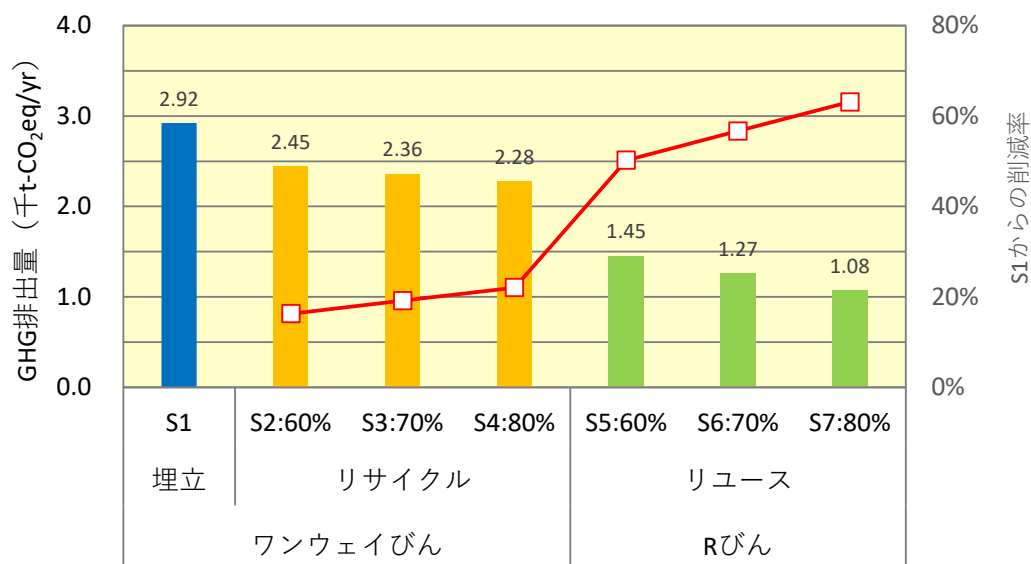
本研究は、びんの重量や回収率といった近年のガラスびんの生産から消費～リユース・リサイクル等の循環フローや、各プロセスのインベントリ(入出カデータ)を反映させたライフサイクル分析によって、地球温暖化、化石燃料消費、都市域大気汚染、酸性化の 4 つの環境影響領域が評価されています。地球温暖化の解析結果では、R びんのリユースによる新びん製造時の GHG (Green House Gas) 削減効果が大きく寄与し、びん回収の輸送による GHG 増加を上回る削減が実現できていることが確認されました。

なお、ビールびん等の他のリユースびんと比べて R びんの再使用回数が少ない傾向にあることから、「R びんの環境負荷をさらに低減させるための方策としては再使用回数を高める(回収率を上げる)ことが重要」と指摘されました。また、ガラスびんのライフサイクルにおいては、電力よりも都市ガスや軽油の寄与が大きいことから、これらの化石資源を脱炭素化させる技術の普及がガラスびん分野の GHG 排出量削減に大きく寄与することが示唆されています。

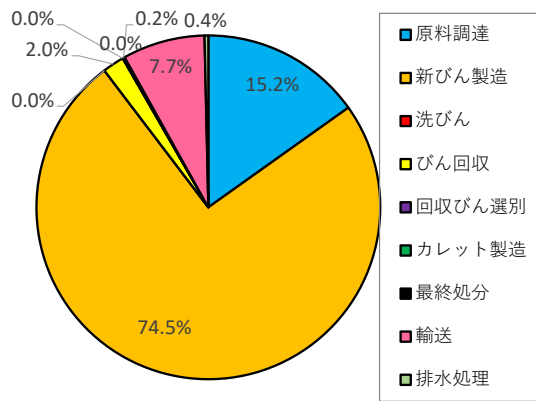
2) 地球温暖化の解析結果

解析の結果、R びんのリユースによって大幅に GHG を削減できていることが明らかになりました。

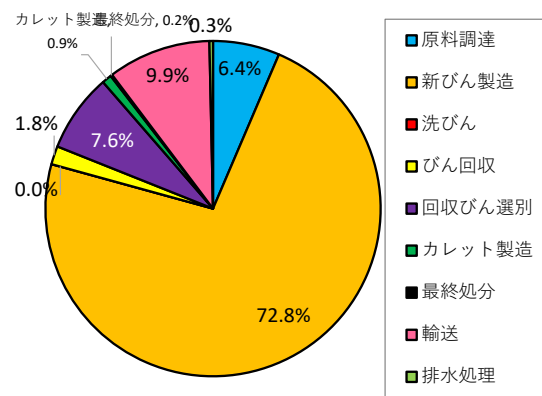
また、ワンウェイ(リサイクルあり)とリユースで削減効果に大きな開きが見られました。これは、リユースでは R びんのリユースによって必要な新びん製造量を削減させることができる一方、ワンウェイ(リサイクルあり)では、原料の購入カレット量は削減できるが新びん製造量自体が減るわけではなく、新びん製造に伴う GHG 排出量をあまり削減できないこと、によります。



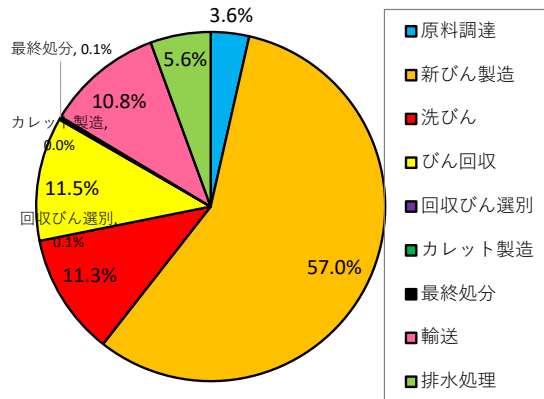
【シナリオ分析結果(地球温暖化)】



(a) S1 ワンウェイ (リサイクルなし)



(b) S3 ワンウェイ (リサイクルあり、回収率 70%)

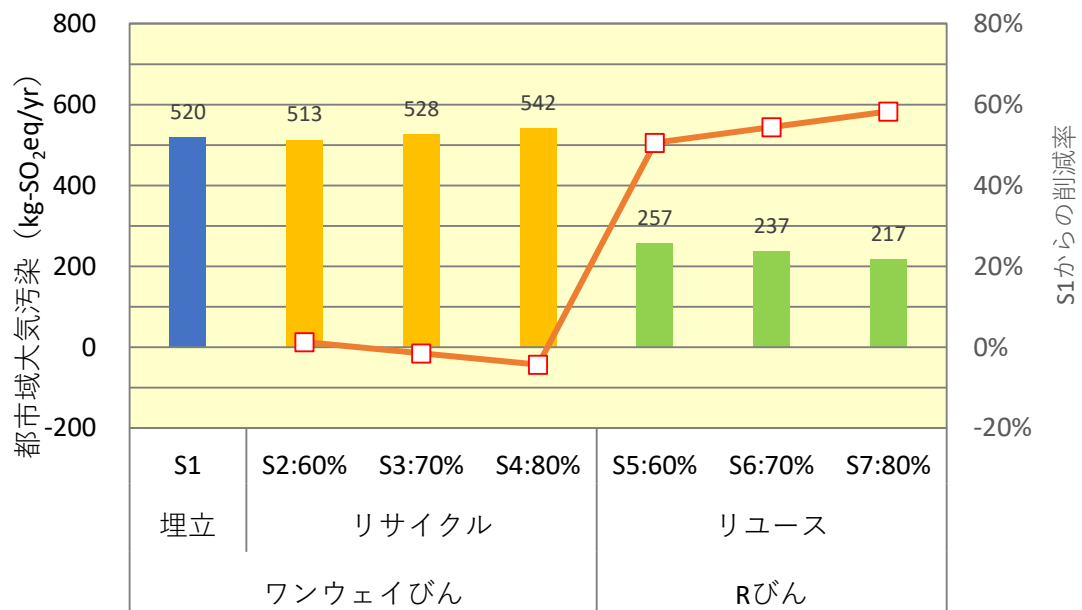


(c) S6 リユース (回収率 70%)

【シナリオ別のプロセス内訳】

3) 都市域大気汚染の解析結果

ワンウェイ (リサイクルなし) の S1 と比較した削減効果は、リサイクルの回収率が上がるほど悪化することがわかりました。回収率 70%以上では S1 よりも環境負荷が高くなる結果となっています。基本的な構造は地球温暖化と同様、新びん製造量が結果に大きく影響しており、都市域大気汚染でも新びん製造の電力や都市ガス由来の寄与が、輸送に伴う軽油よりも大きな寄与を占めています。



【シナリオ分析結果 (都市域大気汚染)】

(出典「Rびんリユースの環境負荷削減効果に関する研究 (京都大学、2024)」)

【資料 4】 リユースびんの P R 動画

【2008 年実施】

“くり返し使うびん”応援コンテスト

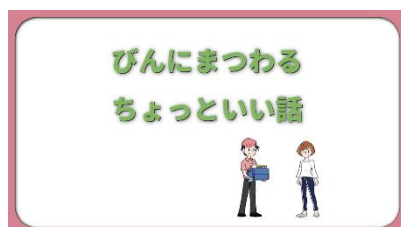
動画部門 大賞作品「くり返す」



音楽部門 市民団体賞受賞作品「リユースびん♪」



【2020 年作成】



【利用編】 おいしいものは、4000 年の歴史がある
ガラスのびんに入っています。



【回収編】 R びんはみんなの財産。くり返し使えば
サステイナブルな未来につながります。



日本では、戦後の高度成長に伴う大量生産・大量消費・大量廃棄による“最終処分場の逼迫”が、1980 年代に大きな社会問題になりました。この問題を解決するため、組合員の選択によりびんリユースに取り組むこととした生協が集まり、1994 年にびん再使用ネットワークが発足しました。

生協のびんリユースは、30 年前に組合員の“直感”で始めたものですが、今日の世界的目標である SDGs に先んじた取組みであり、未来につながる“暮らし方の提案と実践”と言えます。

私たちは、経験的に“おいしいものはガラスびんに入っている”ことを実感しています。そのガラスびんを、回収して、くり返し使えば使うほど、ごみや CO₂ などの環境負荷を減らすことができます。びんリユースは、“ひと手間”かかりますが、簡単便利なプラスチックライフの対極にある“オルタナティブな暮らし方”です。

これからも、「ガラスびんという文化」「リユースという暮らし方」を大切にして、真に持続する社会の構築を目指してゆきましょう。

びん再使用ネットワーク

代表幹事 前田和記



<https://binnet.org/>